

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892700093		
法人名	社会福祉法人 那珂の郷		
事業所名	グループホーム こはるの郷		
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1		
自己評価作成日	令和5年8月31日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先
----------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ 兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの方針である「利用者一人一人が持てる力を発揮し、出来る範囲で何等かの役割分担を行い、互いに助け合い補い合う生活が営めるようにする。」を各職員が意識して日々のケアに努めています。今年度は特に園芸療法に力を入れており、土づくりから収穫・調理までご利用者様のやりがいにつながっている様子で生き生きと過ごされています。その他、新しくコグニサイズを実施したり、ご利用者様全員参加の会議「ささゆりの会」を3か月に1回実施し、ご意見を頂き行事を行う際の参考にさせて頂いたり、いっそうの認知症状の維持・改善へのアプローチとして取り組んでおります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や田畑に囲まれた緑豊かな自然環境の中に位置し、1ユニット9人の少人数制で入居者にとっては恵まれた環境にある。この立地環境を活かし、土づくりから栽培、収穫、収穫された食材を使っでの調理まで利用者と職員が一丸となって取り組む月1回の食事作りの日がある。自然と触れ合う機会が多く、また利用者一人一人が持てる力を発揮し、役割分担を行い、互いに助け合い、補い合うことが、認知症の進行を遅らせ、改善する一助となっている。地域住民の参加があれば“鬼に金棒”である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびりとした暮らしと生きがいのある生活の提供」「地域とのつながりを大切にす る」それぞれの立場で出来る事を実施して いる	「家庭的な雰囲気のある共同生活を営む中で、 適切なケアサービスを行い、認知症の進行 を緩和し、自立した生活が送れるようにする」 をモットーに全職員がそれぞれの立場で出 来ることを日々実践している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	コロナ禍で交流が困難な為、2カ月に1度地 域代表の方と情報の交換を行っている	コロナ禍では地域住民との交流は十分行われて いないが、2カ月に1回は地域代表の方と交流を 行っている。コロナ禍が収束すれば日常的に散歩 や買い物機を増やし地域住民との挨拶や会 話の機会を増やしていきたい、とのこと。	入居前と同じように地域住民とのつながり を持って暮らしていくためには事業所がそ の基盤を築いていくことが重要です。その ためにも事業所が日頃から地域住民との かかわりを深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	キャラバンメイトの登録を行い要請時に活 動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	感染対応が緩和された為、今年度は久しぶ りに運営推進会議が実施出来ています、意 見交換も少しずつ出来ているので今後サー ビス向上に繋げて行けたらと思っています	通常は2カ月に1回開催している。町職員、 区長、民生委員、ご家族そして事業所職員 が出席している。ホームでの活動報告、今後 の予定、意見交換等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他の場面で情報交換 しアドバイスを頂きながらサービス向上に努 めています	町職員が運営推進会議に出席されており、 そこで事業所の現状を報告したり、アドバイ スを受けたりしている。また、緊急の連絡事 項の時には直接町の担当課を訪れ相談して いる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	毎月の会議で議題に挙げて身体拘束をしな いケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で身体拘束に関する議題を 取り上げ、職員の共通認識を図り、安全を確 保しつつ自由な暮らしを支援するために全職 員で取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施や個人面談、会議等で話し合い意見交換を行っている	身体拘束をしないケアの実践同様、虐待防止に関する勉強会を実施。不適切なケアについて話し合い、虐待(身体的虐待だけでなく心理的虐待も)を徹底するよう心掛けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施により周知している	「日常生活自立支援事業や成年後見制度」について勉強会を3年に1回程度行っていたが、今年度は1年に1回は実施し、職員の理解をさらに徹底していきたい。現在、成年後見制度を利用されている方はいない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な時間をとり説明を行い、しっかり納得される様努めている	契約時に「重要事項説明書」や「運営規定」に基づき、サービス内容や利用料金、重度化した時の対応等について詳細に説明し、納得いただいた上で契約を結んでいる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には来所時や運営推進会議への参加時に要望等をお聞きしており、ご利用者様からは日々の中や御利用者参加の会議時等にご意見を頂き反映できるようにしている	家族からは来所時や運営推進会議の折に、利用者からは3か月に1回行われる利用者会議や日々の会話の中から意見や要望を聞き取っている。食事の内容や外出企画等について意見をいただきサービスに反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談時や会議時等にて意見交換を行っている	個別面談や毎月行われる会議で職員の意見を聞く時間を設けている。現場レベルでの節約やリスクマネジメントの観点から、毎月ヒヤリハットを提出してもらい、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者よりの報告等を受け状況を把握し整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の力量を把握しレベルアップに向けた取り組みの情報提供等を行っている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染状況により、可能と判断した時は近隣のグループホームによる連絡会を実施しており情報交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に得た情報を他の職員と共有し入所後のケアに繋げている、また入所後も積極的に交流の機会を作り安心した生活環境づくりに反映している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に不安に思われていることなどをお聞きし安心してご利用して頂ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に思いを伺い、他のサービスも含めた情報提供も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じた家事など生活リハを行って頂き役割を作る事で生きがいに繋がる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所相談時や入所後も含めて、ご利用者様にとってのご家族様の影響力を理解して頂き協力関係を築けている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染状況を踏まえ対応を少し緩和させて頂く事で、面会が増えたり、ご家族様と外出され自宅へ戻られ近所の方と交流などされている	コロナ禍では馴染みの人との触れ合いも制限されていたが、現在は家族との外出や近所の人との交流も徐々に増えている。近くの美容室からも2カ月に1回来訪され、利用者も楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席の配置を考慮したり、趣味嗜好を把握し関係性を深めている、その他、利用者間に職員が入り、会話のきっかけを作るなど能力に応じた役割を実施して頂くようにしている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より情報収集を行い意向に沿えるように努めている、またご家族様等よりも話を伺いケアに繋げている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集などもしっかり行い本人様にとっては生活の続きが出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の状態観察をしっかり行う事で、変化に気付き情報の共有が出来ている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日々の中で、ご家族様には来所時に、主治医には受診時等にご意見を頂き反映しています	利用者全員参加の「ささゆりの会」で把握した思いや要望と、家族や主治医の意見を取り入れた介護計画を作成している。コロナ禍では、外出が少なくなった分、下肢筋力の強化に努めた。現在は散歩など外での活動をプランにいれるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PDCAサイクルを意識して、ご利用者様が気持ちよく生活を送って頂ける様に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあった場合は、職員で話し合い出来る限り柔軟に対応できるように努めています		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理美容などを活用しながら生活範囲拡大を意識して支援を行っている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には従来からのかかりつけ医を継続して頂いており、必要時は連携を取り適切な医療が受けられる様に支援を行っている	ほとんどの方が入居前からのかかりつけ医を継続されている。協力医療機関の多可赤十字病院からは週1回訪問看護師の来訪がある。内科や歯科の往診は希望により、その都度依頼している。基本的には受診は家族となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師の来所時と必要時に情報提供を行い、適切に受診等を行っている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に情報提供を行い、入院中は担当者の方と情報共有と退院時期等の話し合いを行っている	コロナ禍でも入院はスムーズに対応して頂いている。入院中は担当者と情報を共有しながら、早期退院できるように話し合いをおこなっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化された時の指針を説明しており、同意書にも署名して頂いている、必要時には主治医やケアマネジャーなど意見交換を行い方針を共有している	入居時に、重度化した場合の事業所での対応について説明し、同意を得ている。看取りはしていないが、重度化した場合は、主治医や家族と話し合いをもち、今後の方針をきめている。系列の施設へ引き継がれることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	書面での周知を行ったり、実際事故等が起こった時に対応した職員の話聞き意見交換等を行っている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を同敷地内の事業所と共同で実施している。その他運営推進会議等で情報提供し体制を築いている	火災想定で消火・通報・避難訓練を実施した。災害時の避難場所への実際の避難の訓練は行われていない。今後、消防署の立ち合いの下、訓練を行っていきたいとしている。運営推進会議で、災害時の協力を民生委員や区長に依頼している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修資料の周知や会議等での意見交換等を行っている	利用者の意思を尊重し、職員の価値観や都合だけで物事を判断しないことを職員間で申し合わせている。居室のドアはプライバシーを損ねないように閉めるようにしている。同性介助を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の主体性を意識したケアを行う事で自発性を促し自己決定出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の予定は設定しているが、基本的にはご利用者様の意向や体調等に臨機応変に対応するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様自身に衣類等を選んで頂いたり、その他、理美容では毛染め等の選択もして頂いている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者参加の会議時や普段も含めて、食いたい物の聞き取りを行い提供している、準備や片付けなども毎回一緒に行っている	昼食と夕食は副食を配達してもらい、朝食は食材を購入して調理している。今年12月からは全食調理予定である。利用者の要望を聞いて、月1回食事作り(中庭でのバーベキュー等)をしたり、毎週日曜日にはおやつ作りを楽しんでいる。外食も不定期で実施している。	献立作りから調理での音や匂い等の五感刺激を感じていただき、より充実した食事を実現すべく全食事が事業所手作りの食事が提供される予定です。実現されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた形態や量の調整を行い、提供のタイミングなども出来る範囲で個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後に口腔ケアを勧めており、必要時は一部介助もを行っている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録意見交換などにより情報収集を行い、会議等で話し合い実施後に評価を行うなど自立に向けた取り組みを行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、会議などで話し合いをしている。紙パンツから布パンツやパットのサイズダウンなどを行うことでトイレでの排泄がスムーズに実施できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動の実施、必要に応じて下剤を使用し量、種類の調整を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ご利用者様の希望に添えるように余裕を持った入浴予定にしている、その他声掛けの工夫なども行い衛生管理に努めている、今後夕食後の入浴も検討している	週2回、午後の入浴となっている。なるべく個々のペースで入浴できるように心がけている。夕食後の入浴は19時頃から、10月末から実施予定である。希望者は入浴回数を増やすことができる。	夕食後の入浴が実現され、利用者の選択範囲が広がり、温まって就寝できる機会が増えることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には希望に沿って対応を行い、必要時は声掛けし対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストをファイリングしており、すぐに確認できるように近くに置いている、また状態に合わせて主治医に相談し支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話、その他ご家族様等より情報収集を行い一人ひとりが楽しく生活できるように支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対応が緩和されたので、少しですがご家族様や施設でいきたいところへ出掛ける事が出来ています	コロナが緩和され、外食等で外出機会が増えてきている。天候を見て散歩など実施している。利用者全員参加で、ナス、胡瓜、プチトマト等の野菜を栽培している。お盆には自宅に帰られた方もおられる。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	質問	回答
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、お金を使える様お預かりしており、必要時にお支払いして頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が過ごされているリビングに電話を設置しており希望時等に対応させて頂いており、手紙も希望時に対応している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には落ち着いた色の家具等を配置しています、その他、花を飾ったりして居心地の良い空間づくりに努めています	転倒防止を考慮した共用空間作りをしている。色々な物を置きすぎず季節の花々を飾る等、季節感を大事にしたシンプルな環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてゆっくり過ごして頂いたり、食席を気の合ったご利用者同士にしたりとリラックスして過ごして頂ける空間づくりに努めています		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前よりご家族様に説明させて頂き、設えの道具等の持参を要請している、その他日々の中で情報収集を行いプライベート空間を意識して環境づくりを行っている	利用者と職員と一緒に掃除や居室作りをしている。転倒防止のための家具の配置等にも留意している。面会を実施しているが、まだ家族は居室へは基本入れない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示の設置や椅子などを置き、個別に必要な支援を行っている		

# 基本情報

事業所番号	2892700093
法人名	社会福祉法人 那珂の郷
事業所名	グループホーム こはるの郷
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1 (電話)0795-20-2218


【情報提供票より】令和5年8月21日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 29年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 名
職員数	8 名	常勤	6 名 非常勤 2名 常勤換算 7.1 名

## (2)建物概要

建物構造	木造造り1階建ての1階部分
------	---------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	共益費 170円/日	
敷 金	200,000円	水道光熱費	610円/日	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	475 円	昼食	485 円
	夕食	485 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 令和5年8月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4			
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	多可赤十字病院 松井庄診療所 藤田歯科医院
---------	-----------------------

(様式2(1))

事業所名 グループホームこはるの郷

## 目標達成計画

作成日 令和5年10月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ過であった為、地域の方との交流が減っている。	ご利用者様が地域とつながりを持ちながら、暮らし続けられる様にする	・絆カフェの実施 ・買い物など外出時に挨拶や会話の実施 ・ボランティアとの交流 (レクレーション、おやつ作りなど)	12ヵ月
2	40	昼・夕食のおかずを配食サービスに頼っており、今後は食事に関して、より充実した対応がしたい	・献立から調理等まで、全ての食事作りの過程を自分たちで行う事で、各ご利用者様の役割を持って頂きやりがいを感じて頂く ・音や匂いなど五感で楽しみ生活リズムの安定や認知症改善など期待したい	・業務の流れなど計画を行い、スムーズに昼・夕食作りを行えるようにする ・ご利用者様一人一人の能力を把握し、食事作りの過程で出来る事をして頂く	12ヵ月
3	45	入浴時間が午前・午後の選択肢しかなく入浴回数等も増やせない	入浴の時間として、夕食後の時間も選択肢に入れ、希望者には入浴回数も増やしていく	・夕食後の入浴を試し、ご利用者様の意見をお聞きし予定を作っていく ・希望者には可能な範囲で入浴回数を増やす	12ヵ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。